

職員団体との交渉の議事要旨

(開催日時)

平成27年7月14日(火) 10:30～11:25 (55分間)

(開催場所)

札幌第1合同庁舎15階1・2号会議室

(出席者)

当局側(北海道開発局)

岡部 和憲(北海道開発局長)、山崎 弘善(開発監理部長)、

對馬 一修(開発監理部次長)、池下 一文(総務課長)、松山 憲夫(職員課長)、

横田 康弘(総務課適正業務管理官)、上野 稔和(職員課長補佐)

職員団体側(全北海道開発局労働組合)

高倉 司(中央執行委員長)、熊倉 輝人(書記長)、

服部 雅欣(中央執行委員(組織部長))、惣田 貴弘(中央執行委員)

(議題)

【2016年度勤務条件改善に関する要求関係】

超過勤務の縮減について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、交渉議題として取り決めた事項について回答(別紙のとおり)。

(要旨)

(職員団体) 業務量と定員のバランスが取れておらず、また、業務内容が複雑化していることもあり、超過勤務の実態が改善されていない。当局の認識を聞きたい。

(当局) 当局としては、超過勤務の縮減が進んでいると認識しているが、できる限り超過勤務が少なくなるよう、また、特定の職員に業務が集中することのないよう、業務配分の見直しや職員の配置など、引き続き取り組んでいきたい。

(職員団体) 超過勤務を縮減させるために、我々は業務軽減を求めているが、当局として、更なる縮減方策を講ずる考えはないのか。

(当局) 超過勤務の縮減に当たっては、管理者だけに任せるのではなく、組織全体で仕事のやり方、進め方を良い方向に改善していかなければならないと考えている。本局と開建が連携し、そのことについて検討していきたい。

(職員団体) 職場内ミーティングは重要だと考えているが、管理者が一方向的に説明しているだけで、その場で職員から意見ができるような雰囲気となっていないのではないか。

(当局) 当局としては、職場内ミーティングは、職員から様々な意見を聞くための重要な場と考えており、今後とも職員が発言しやすい職場環境づくりに努めていきたい。また、職場内ミーティングに限らず、日頃から、職員との対話を通じて双方向のコミュニケーションを図るよう、引き続き管理者を指導していきたい。

(職員団体) 管理者は単に「超勤をするな」「帰れ」と言うだけで、業務の進行管理がきちんとできていないという意見がある。当局として、どのような指導を行っているのか。

(当 局) 当局としては、コミュニケーション能力や指導力の向上を目的として、研修等の充実を図るなど、管理者のマネジメント力の向上に努めているところである。

管理者に対しては、職場のマネジメントが管理者の重要な責務であることを認識し、職員とのコミュニケーションを積極的に図り、風通しのよい職場づくりに努めるよう、引き続き指導していきたい。

※文責は北海道開発局当局(今後修正があり得る)

交渉議題に係る回答メモ

(2016年度勤務条件改善に関する要求)

平成27年7月14日

超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、当局としても重要な課題であると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行など、超過勤務の縮減に努めてきたところである。

また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。